

高等学校学習指導要領解説数学編第 1 章 1 節 2 (3) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 (pp.4-5) から

1 以下の文章の空白を埋めよ。

・・・今回の改訂は、() 改革という、高等学校教育を含む初等中等教育改革と、大学教育の改革、そして両者をつなぐ大学入学者選抜改革という一体的な改革や、更に、キャリア教育の視点で() の接続を目指す中で実施されるものである。改めて、高等学校学習指導要領の定めるところに従い、各高等学校において生徒が卒業までに身に付けるべきものとされる() ・能力を育成していくために、どのようにしてこれまでの授業の在り方を改善していくべきかを、各学校や() が考える必要がある。

また、選挙権年齢及び成年年齢が 18 歳に引き下げられ、生徒にとって政治や社会が一層身近なものとなる中、高等学校においては、生徒一人一人に社会で求められる資質・() を育み、生涯にわたって() を深める未来の創り手として送り出していくことが、これまで以上に重要となっている。「主体的・() で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）とは、我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点を学習指導要領に明確な形で規定したものである。

今回の改訂では、() ・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める際の指導上の配慮事項を() に記載するとともに、各教科等の「第 3 款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」等において、単元や題材など内容や時間の() を見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、主体的・対話的で() の実現に向けた() を進めることを示した。

2 内容から解答を導くポイントと考えたことを述べよ。

3 この問題の解答を自己評価し、
気づいたこと、感じたことを述べよ。

■ 5 段階自己評価 ()

■